



“ビオトープ気延の里”のその後

寄稿：仁木一喜（ビオトープ気延の里副会長）

【ビオトープ気延の里 活動報告】

皆さんこんにちわ。ビオトープ気延の里の仁木一喜と申します。管理士会の方々にご支援をいただきながら、ビオトープもどき造りをさせていただいております。そんなご縁で、今回の投稿と相成りました。

私は今年で還暦を迎えました。私が、このビオトープ造りを始めたきっかけは、すごく単純でした。近頃、虫や、カエル、クモ、ドジョウ等々、私たちが子供の頃は、そこらへんにゴロゴロいた生き物が、全くいなくなったなー。私たちが子供の頃は、そんな生き物たちを捕まえて遊んでいたのに。「これでいいの？」っていう思い。できることなら、少しでも流れに逆らって、生き物の減少を食い止め、生き物を増やし、その中で子供たちを遊ばせてやりたい、そんなことをずーっと思っていました。

そんな中で、運命の出会いがありました。東京出張の帰りの飛行機の中で、地元で病院、養護老人施設等を経営するT氏にお会いし、そんな思いを話しました。自然を復活し、そこに子供たちを招き入れるという構想。虫たちと戯れることによって培われる、豊かな感性。地元の方々や、老人ホームのお年寄りたちとの交流もできると。

T氏は二つ返事でこの構想に賛成してくれました。そして、今まさに埋め立てをしようとして計画している土地、約500㎡の提供をご提案くださいました。この土地は、気延山ろくの懐にあります。そして近くには、田んぼや畑、そのための水路、神社やため池などがあり、まだ比較的たくさんの緑が残っています。ここを一つの拠点にしようとして計画を立てました。そして、この計画を地元の友人を中心に話をしましたところ、たちまち60人余りの個人会員と25社の法人会員の入会をいただきました。もちろん、徳島市内からの入会もありました。

さて、12月の設立総会も済ませ、いよいよ活動開始です。まず、すぐ隣の休耕田、約600㎡の借受の承諾を取り付け、お米を作ろうという事になりました。20年余り放置されていた田んぼは、2mも草が生い茂って、中に入ることもできませんでしたが、少しずつ少しずつ刈取り、撤去しました。その後、人間の手ではどうしようもなかったので、パワーショベルで根を掘り起し、会員所有の農耕用トラクターで何回も何回も耕してもらいました。

私たちの最終目標は、“子供たちのために”です。そこで、この作業と同時進行して、すぐ近くにある石井小学校に、我々の意図をお話しました。幸運なことに、学校長がビオトープに対し大変ご理解がある方でして、後日に、我々の会の副会長をお受けいただけただけで、話がとんとん拍子に進みました。

新年度からクラブ活動の中に新しく、“生き物ビオトープクラブ”を作ろう、そして、5年生の社会科の授業の中で、5月に田植えをしようという話がまとまりました。5月11日、石井小学校5年生103人が3班に分かれての田植えは、子供たちの表情をみていると、『して良かったな』と思いました。佐那河内ネイチャーセンターの市原先生のご指導の下、神社の鎮守の森で、生き物調査も同時にやりました。

その後、6月23日に、これまた5年生全員による、田んぼの周辺環境調査、生き物調査をしました。徳島県ビオトープアドバイザーの犬伏さん、日本ビオトープ管理士会徳島支部からお二人の方にもご協力いただきました。子供たちの目が、生き生きと輝いていたのは、私の“ひいき目”だったんでしょうか？（次頁へ）



ところで、私たちの拠点は、もうひとつあります。そこは、鎮守の森のすぐ北側に、ここも30年近く放置されていた広さ600㎡ほどの畑です。私が子供の頃は、ここは“ふけた”といって、一年中水があり、お米しかできないような湿地でした。そこをお借りし、さきほどの田んぼ同様、少しずつ、ここは3mほどの笹とバラの密生地でしたが、切り開きました。

根は、やはり、パワーショベルで掘り、ここには広さ5m×10m、水深は浅いところで10cm、深いところでは90cmの池を作りました。土で土手を作り、石垣を積み、取水口や小さな小川を作りました。工事日の3月20日、22日の二日間では延べ60人以上のお手伝いをいただきました。

池が完成し、水をため池から引いた時はジーンと来るものがありました。さて残りの土地はどうするか、ということになり、メンバーに開放し、それぞれが思い思いに好きな野菜とか、花を植えたらということになりました。

現在植わっているもの。長なす、ピーマン、オクラ、すいか、きんまっか、トマト、枝豆、じいも、さつまいも、なんば、ふき、みょうが、いんげんまめ、でーこん(ご存知ですか?)、ひまわり、まだまだたくさんあります。本当にいろいろなものを作っていますが、条件はただ一つ。“無農薬”。薬は、全く使っていません。それに、化学肥料も。予想に反して、作物は、よく実ります。なす、トマト、いんげんまめ、と、毎日収穫しています。

池には、もう、いろいろな生物が来ています。トンボ、メダカ、アメンボウ、外来種のブルーギル、オオクチバス、それと、子供たち。先ほどの石井小学校“生き物ビオトープクラブ”のメンバー13人が、毎月2回、ここを訪れます。来るなり、池の中に“ドボン”。なにやらわめきながら無心に網を使っています。私たちは、それを遠目で眺めるだけです。

このように少しずつ小さな輪が広がっているように思いますが、問題はたくさんあります。最大の課題は、思うように子供たちがここに来てくれません。まだ始まったばかりで欲な望みかもしれませんが、もう少し多くの子供たちが来てくれたらと思っています。その為にはどんな場所にしたら良いのか、どんなPRが必要なのか、どんなイベントをすればよいのか。皆様のお知恵をお貸しいただけるようお願いをし、投稿を終わらせていただきます。

(詳しくは、URL : <http://www.kinobenosato.com>へ / お問い合わせは、携帯電話 : 090-3782-2053 仁木一喜まで)

ビオトープ・サロン お便りコーナー

読者の方から、お便りをいただきました。読者の皆様のご感想やご意見をお待ちしています。

【読者：Sさん】

ビオトープ・ニュース004「生きものみつけたよ！」面白く、又興味深く拝見しました

小さな生態系を、子供達が目をきらきらさせながら囲む様子が手に取るように分かり、ほのぼのとした感覚を覚えました。生き物に対する接し方、正確な知識、活動の記憶、どれをとっても子供達にとって良い経験だと思います。

次号の配信が待ち遠しくなりました。また宜しくお願い致します。

【読者：Kさん】

ビオトープ・ニュース005「生物多様性・・・」と006「ミミズのカー口」を読んで

とても興味深く読ませていただきました。

「生物多様性」と聞くとどうしても難しく考えてしまいがちなのかもしれませんね。以前、農政関係者の方のお話を聞く機会があって、「ビオトープを導入するのは難しい」とおっしゃられていました。「費用や場所が確保できない」といったことだったと思います。

「ビオトープ=お金がかかる、広い場所が必要」といった先入観というのでしょうか、どこか難しいことのように捉えられているようでした。

「生ゴミの堆肥化」私も賛成です。・・・ですが、残念ながら私の場合、堆肥としての使い道がなくゴミとして出しているのが現状です。使い道がない家庭でも生ゴミステーションなる場所へ生ゴミを持ち寄り、必要な人(個人、団体問わず)が利用できる仕組みがあればいいなあと思うのですが・・・。

【読者：Kさん】

ビオトープ・ニュースの配信ありがとうございます。これからもご配信よろしくお願ひいたします。

編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください! 編集: 櫻本幸実